

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101844		
法人名	社会福祉法人ひかりの里		
事業所名	めだかの学校シニア		
所在地	甲府市武田1丁目3-23		
自己評価作成日	平成28年11月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成28年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全国的にもまれな児童養護施設との併設施設のため、子どもとの交流を行い相互への刺激となっている。
 甲府駅に近いという事もあり、外に出かける行事を盛んに行っている。
 利用者真の希望を聞いた少人数での個別外出や、家庭的な雰囲気을大切に利用者「その人」らしく過ごせるよう配慮している。
 職員研修も行い認知症の理解をしたプロ意識を持ち利用者へ接している。
 常に利用者の方向を見た介護が出来るよう職員間のコミュニケーションを大切にしている。
 「家庭的」な雰囲気を大切にアットホームな施設作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、甲府駅北口に近くの武田神社や山梨大学に通じる、大通りに面した建物の3階にある。2階は児童養護施設が併設されており、日頃から児童との関わりや近くに系列の事業所があり、災害時の協力体制が築かれている。文化祭には、合奏を利用者のキーボードの伴奏で地域の方と一緒に練習して参加し、地域の一員として交流を図っている。管理者を始め職員は、利用者に対して尊厳を持ち、利用者が安心して1日笑顔で過ごしてもらうことを理念として、日々取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

めだかの学校 シニア

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を大切に実践して取り組んでいる。 会議、朝礼等で周知徹底をしている。	事業所独自の運営理念である「安心して笑顔で、一日一日を大切に過ごして頂く」を基本として、一人ひとりの笑顔を大切に尊厳を持って接している。管理者・職員は申し送りノート、毎月の職員会議など折に触れて理念の意義を話し合い、情報を共有し日々の支援に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して、地域行事にも積極的に参加している。 近隣住民との挨拶や会話を大切に雪が降った時などは積極的に地域の雪かきなどを行い交流を深めている。	自治会に加入し回覧を回したり、文化祭に利用者の作品を出展・また、利用者の伴奏で合唱にも参加し、練習の際には、地域の方も来て一緒に参加している。利用者は、地域の薬局や理髪店に行き、地域の一員として日常的に交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設に見学に来てくれた際や、運営推進会議の時や地域行事の時に相談に乗れるようにしている。 実際に地域の方から相談に来る方もいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内で意見・要望を聞きそこでの内容を職員会議などで話し、周知徹底してサービスの向上になるように努めている。	運営推進会議は、2か月に1回水曜日の午前中に開催し、事業所の状況や行事の報告をしている。家族からは、日常関わっている事業所への感謝の言葉が多くある。また、自己評価及び外部評価の結果を報告し、次のステップにつなげている。会議録は、利用者の面会時に見られるようにし、情報共有に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から電話等で相談できる関係作りをしている。 逆に聞かれる事もあり、相互に信頼関係を作れるようにしている。 クレーマーの家族がいた時は甲府市にも状況を伝え、一緒に考え取り組んだ事例がある。	認知症サポート養成講座を、地域包括支援センターと一緒に開催している。事業所の直面している課題を具体的に伝え、相談をしている。また、介護相談員の受け入れを行い認知症ケアの実践を理解してもらうように努め、市の担当者や日頃から協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに従い理解すると同時に安易に身体拘束をしないように徹底している。また会議や内部研修でも言い続け職員に周知してもらっている。言葉によるスピーチロックも禁止している。	月1回の研修や職員会議で身体拘束をしないケアを学んでおり、職員は理解している。不適切な言葉かけがあった時は、職員間でお互いに注意し振り返りをして、共有意識を図っている。また、契約時にリスクについて家族と話し合いを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修等でも虐待について勉強会を行い、職員間でも言い合える職場作りをしている。職員の顔色ではなく利用者の顔色を見たケアを心がけ実践している。 虐待防止マニュアルを作り対応している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加して学ぶようにしているが、まだまだ難しい面があるので引き続き学んでいきたい。 以前制度を利用していた方がいたが、今はないので今度利用する方がいてもいいように学んでいきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族とも話しやすい関係になるよう努めている。 電話連絡などして入所後も安心して頂けるような配慮を心がけている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

めだかの学校 シニア

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や口頭でクレーム等頂いた時は敏速な対応を心がけている。 何でも話せる雰囲気作りをして話ができるようにしている。そのため行事等にも参加してもらっている。	家族の面会時や運営推進会議に出席した時、また、職員に直接、意見や要望を言ってもらえるように、日頃から話し易い関係を築いている。家族からは、利用者の衣類の間違えがあるので、名前を付けて欲しいとの意見があり、職員は話し合い、月1回タンスの整理をし衣類の確認をして運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務の中で困った事などを聞き、働きやすい環境作りをしている。 職員にも丁寧に関わるようにしている。	年度初めに職員会議が、それぞれの意見を聞く場となっている。日頃の会話から意見を言いやすい関係にあり、誕生日には、おやつで食べたい物を聞いて作る。ちぎり絵を月1回行っている。キャリア制度を作って資格を取りたい等、職員個々の意見は、実践し運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が気持ちよく働けるような配慮を行っている。能力ややる気に応じた昇給を行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回ある内部研修などを積極的に推進して行い、各職員の質の向上を目指している。また内部だけではなく、外部の研修会にも積極的に参加する機会を提供している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にいくつもの施設があるので、内部での交流研修は積極的に行っている。数年前には他施設研修会も行った研修などで他施設の方と交流ある時には積極的にコミュニケーションを図り情報交換している。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の家族からの聞き取りや、入所後も要望等を聞き考慮したケアを心がけている。そのために日頃の面会時や行事の時に積極的にコミュニケーションを図り関係づくりに努めている。利用者本人にも気付きを大切にしながら何が必要で何を求めているのか？を考えたケアをしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や入所後も要望等を聞き考慮したケアをしている。何かあれば電話等で情報交換をして、何でも話ができる関係性作りをしている。 出来ることや出来ないことも極力伝えて家族と共に支援している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	柔軟な対応を常に心がけ、利用者にとって何が一番最適か？を常に考えてケアしている。思い込みによる決めつけた対応にならないように、色々な角度から物事を見る癖をつけて判断するようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気作りが心がけ、自分の親や大切な方が入所しても安心して預けられるような環境・関係づくりに努めている。 職員もアットホームな雰囲気の中で一日一日を過ごせるように仕事をしている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

めだかの学校 シニア

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の面会以外に、行事の時に家族にも来てもらい一緒に過ごすようにしてもらっている。家族と共に一緒に利用者をケアしていければ良いと考えている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別外出の時や散歩時などになじみの場所に行ったり、面会等で知り合いの方が来た時は長居しやすい空間作りを心がけ本人のためにも気軽にまた来てもらえるよう配慮している。地元美容院や知人のところ遊びに行ったり、長年勤めていた職場にも行くようにしている。	入居時にこれ迄の関わりを継続していくために、生活歴や馴染みの人などを把握するようにしている。住んでいた家が気になり職員と一緒にいき、その折に季節に応じた洋服を持って来る。馴染みの美容院に行く等、一人ひとりの生活習慣を尊重し、継続できる支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家庭的な雰囲気作りの中で、縁あって7名で生活をしているので同じメンバーで何年も生活出来るように温かい雰囲気を心がけている。そのために皆でいろいろな行事などに取り組んでいる。孤立しそうな利用者には職員が関わり支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もお茶を飲みに来たり、行事に来てくれる家族の方が来てお互いが話し合える関係は継続している。こちらから連絡するときがある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に話をしたり「その人らしく」過ごせるように心がけている。自分意思が表現できない方には、ご家族の意向を確認して対応している。	家族から昔の習慣・日頃の関わりの中で声を掛け、言葉や表情などからその真意を推し測り、それとなく確認するようにしている。入浴時、利用者が特に思いや意向を言葉にし易い環境にあり職員は、それを汲み取り、介護のためのアセスメントのみならず、生活支えるためのアセスメントとしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に聞き取りを行い生活歴を把握して、職員にも周知徹底してもらいケアに当たっている。利用者本人をよく見て行動など気になる所があったら本人、家族に確認している。過去にはここが「家」だと認識してくれた利用者もいた。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを把握して、その中で本人らしく生活出来るようなケアに努めている。それでいて、居室に常に一人でいて孤立しないような配慮をしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時に本人・家族の希望を反映できるような計画にしている。面会時などに家族からも要望や気付いたことなど、その意見を大事にしてケアに当たっている。それが実践に移っていきけるような努力を続けたい。	計画について本人と個別に話し合せて意向を聞き、遠方の家族は電話で話し合いプランを作成している。情報を得て、楽しみ事も入れ作成されたプランは、職員と確認をしている。また、プランの変更時には職員会議で検討している。月1回は様子を確認して、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を記入して、それを個々の介護計画にも反映したり、処遇会議での意見交換の材料をしている。職員間で気付いたことや統一事項は申し送りノートに記入してケアに活かせるようにしている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

めだかの学校 シニア

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の身内で不幸や祝い事があった場合など、職員が付き添い一緒に参加したりしてサービスのイメージを決めつけないような配慮を行っている。勤めていたお店に職員付き添いで訪問したり入所前に行っていた美容院に行くなどしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターと連携をとったり、地域住民との関わりで地域に溶け込みながら快適かつ安心・安全な生活が送れるよう努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内にクリニックがある旨を伝え、そこに病院を映しても構わない利用者は紹介状をもらい健康管理のフォローを行っている。病院を変わずそのままの方も当然おり家族おとの連携の中で受診等行い健康管理を行っている。	入居時の話し合いにおいて、事業所の主治医を大半が希望している。受診は基本的に家族対応であるが、職員が同行する場合は、ケース記録を持って行き、結果はケアノートに記録して、職員は申し送りノートで伝達し情報を確認している。また、家族には受診結果を報告し情報を共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者が特変時などはリーダー→管理者に伝わり、その中で家族と相談して受診や対応をきめるようにしている。また法人内の看護師とも連携してケアしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は病院との連携を密に行い、退院の許可がおりた時にはカンファレンスを行い速やかに対応するようにしている。また入院中にADL低下することもあるので、介護計画も変更しながら医師・看護師ばかりではなくリハビリの職員からも情報を聞き対応している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院前に当然家族に伝えると同時に当法人にあるクリニックや特別養護老人ホームなどへの入所可能な旨は説明し広い選択肢の中で方向性を決めるようにしている。	入居時に重度化した場合や看取りについて、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。これまでに在宅酸素を使用して関係者とチームで看取りの直前迄対応した経緯があり、職員も利用者や日常関わって来て 看取りができた事は、今後につながる良い機会となっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低年に1回は内部で救急法の勉強会を行い職員の技術の向上をしている。それ以外にも外部の研修で学ぶようにしている。いざという時に落ち着いて対応するように話しもするようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応マニュアルを作成している。年に数回避難訓練を行い、利用者はもちろん職員の訓練をしている。年に1回は消防署にも行き、訓練と同時に消防署に施設を知ってもらう機会としている。	基本的には、年3回～4回避難訓練を行っている。地域の防災訓練には、地域の小学校へ利用者と共に参加し、地域や2階の事業所との協力体制が出来ている。地域の消防署に行って消火器の取り扱い方の実践等を行いました、事業所を理解してもらう機会としている。災害に備えた備品等の備蓄もしてある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「尊厳」をモットーに一人ひとりを大切に利用者のケアをしている。言葉遣いを気を付けて甲州弁の乱用は止めて、敬語と甲州弁を組み合わせた声掛けを実践している。	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを日頃から心がけ、トイレへの対応・入浴時・居室に入る時など徹底している。希望に沿った対応で、自己決定し易い言葉かけをするように努めている。マニュアル通りではなく、柔軟性を持って対応している。書類については、責任ある取り扱いと管理を徹底している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

めだかの学校 シニア

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決められた日課だけではなく、利用者の顔色を見たケアを行い、利用者の「今」を大切にしたい働きかけを行っている。また衣服にしても利用者の思いを大切にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた日課だけではなく、利用者の顔色を見たケアを行い、利用者の「今」を大切にしたい働きかけを行っている。「生活の場」を意識した支援を心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の利用者だと家族が持ってきてくれた化粧品や衣服でオシャレな身だしなみを行っている。 男性の場合は整髪・髭剃り支援を行い身だしなみに気を配るようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの役割を大切に、一回の食事で多くの利用者が関わられるような工夫をしている。	メニューは、隣接するグループホームと交互に職員が作る。火・金曜日の夕食は、自由メニューなので、利用者と相談し近くのスーパーに買い物に行く。その日のメニューをボードに書いたり、食材切り・おしぼり配りや男性の利用者が盛り付け等、職員と一緒に準備をしている。個別の外出時や少人数での外食もやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や症状に合わせて食事やおやつを提供している。栄養摂取が充分ではない利用者の方には高カロリーな捕食を心がけて対応している。また場面に応じて水分チェック表を付けて対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行っている。 車椅子の方でも洗面所等を使い口腔ケアを行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの間隔や回数、量も人によって違うので状態を把握して時間や状態を見て誘導したいオムツではなくトイレで排泄ができるよう支援している。	排泄チェック表でパターンに応じた個別の排泄支援を行っている。トイレでの排泄を大切に、夜間も全員がトイレへの誘導で対応をしている。腰痛のある利用者には、夜間のみポータブルトイレへの誘導をし、個々に合った支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬での対応もしているが、極力自然排泄が出来るように運動や牛乳を飲んだりの工夫をしている。またそれを記録に残し連続性のケアになるようにしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は利用者にとって大切なので、その日の体調を見ながらだが束縛なく入浴が出来るようにしている。	一人ひとりが基本的に週2~3回入るように対応している。入浴を好まない利用者には、タイミングを見て声掛けをしたり、職員を代わってもらい対応をしている。一人で入浴ができる利用者には、様子を見ながらも見守っている。好みの石鹸を使用している利用者もいて、くつろいだ気分で入浴できるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

めだかの学校 シニア

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて、利用者の方がぐっすり休まれるように対応している。人によっては日中に少し仮眠をとる利用者もいる。ぐっすり眠れるように日中の過ごし方や、電気、温度などにも配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては危険なので、用途などをケース記録の後ろに添付して皆で理解して行っている。またケアノートと言う医務の申し送りノートを作り皆で情報共有して取り組んでいる。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人らしく生活が出来るよう支援している。一人ひとりの出来ることを大事にして残存機能を生かしながら取り組んでいる。草取りや料理、ピアノなど。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外出や全員で外に出かけたりなどの外的刺激を大事にしている。立地上、外に出やすい環境など有効活用している。	食材の買い出しや近くの神社・北口駅前広場のイベント見学、利用者のその日の希望に添って個別の外出支援を行っている。事業所前の通りに季節には、信玄公の騎馬隊・大学の仮想パレードが通り外に出て楽しむ機会となっている。また、大型ショッピングセンターは出掛けることもあり、職員と一緒に楽しみ五感刺激の機会としている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の時に支払ったりと、お金を持つ楽しみ、使う喜びを大事に出来るようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	たまに電話で話をしたり年賀状を書いて送るようにしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場を意識して家庭的な雰囲気になるようにしている。利用者が書いた作品などを掲示して雰囲気作りをしている。	フロアの壁には行事の写真や文化祭に出展した作品、季節のクリスマスの飾り付けがしてある。関係者から頂いた鏡台が置いてあり、利用者が髭をそったり、美容師が来た時に気分良く使用している。キッチンからは、調理の匂いがして生活感を出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	過去には自分の居室に呼び話をしている利用者もいた。玄関前にソファを置いたりして限られた中ではあるが「空間」作りをしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に居室は利用者本人、家族が自由に使い、家庭的な雰囲気が出てくる。男性の利用者やキーパーソンの家族が男性の場合は殺風景な居室もあるが。	居室の入り口は、家庭的な雰囲気が出るように障子紙を貼った引き戸となっている。吊戸棚・ベッド・カーテンが用意されている。家族の写真や仏壇が持ち込まれ、個別に対応している。また、利用者が描いた絵画・習字が飾ってあり、居心地良く過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ワンフロアーの環境なので生活しやすくはなっている。段差や危ないと思ったところは極力改善して対応している。利用者が安心・安全に生活できるように常に考えている。			